

広島県呉市における観光地域の広域化

—「平成の大合併」による観光への影響—

金高 文香

近年、日本政府が強力に推進する市町村合併は、地域領域の広域化だけではなく、観光地域の広域化にもつながった。

本研究は、合併による観光地域の広域化に着目し、観光地として知名度を上げている広島県呉市を事例とし、その現状を明らかにする。また、考察の視点として、観光地への誘引力となるなど、地域の観光振興の基盤となる地域アイデンティティと観光イメージを用いた。

多角的な研究を実施するため、観光地域を構成する内部と外部からの考察を行った。まず、外部からの考察では、観光地域の特徴と行政による観光振興に注目し、合併前後の比較を行った。次に、内部からの考察では、アンケート調査から住民意識を分析し、地域内部で観光振興を担う観光関連団体や観光施設について、聞き取り調査に基づく考察を行った。これらの考察結果から、呉市における観光地域の広域化の現状は以下のようにまとめられる。

観光地域の広域化により、呉市では、観光資源・観光施設が多様化し、観光の魅力が増大した。しかし、一方で観光イメージの形成基盤が複雑化した他、旧呉市と合併町では住民意識に差異があるため、新呉市としての観光イメージの統一が困難になっている。また、現在の呉市観光は、大和ミュージアムに依存したものとなっていることが確認できた。「大和」は合併町にとっても不可欠な存在となっているが、その高い依存性により、合併町などの他の観光イメージが希薄化している状況がある。観光イメージに注目すると、観光地域

の広域化は、イメージの複雑化や希薄化といったマイナスに働いた一方で、新しいイメージの創出など、観光イメージにとってプラスにも働いたといえる。

地域アイデンティティに関しては、合併により自治体が消滅しても維持されていることが分かった。アンケートの結果、住民は居住地への思い入れや愛着心といった地域アイデンティティを持ち続けていることが確認された。また、合併町の観光施設に導入された非公募による指定管理者制度は、地域との密着性を維持した形で管理運営されるように行政が配慮した結果であるといえ、行政が地域アイデンティティの維持に貢献していると捉えられる。

広域化した観光地域内の関係性について考察した結果、合併による自治体の権限移譲が合併町の自立性を奪い、観光振興を行政に依存したものにしていることが明らかになった。行政側から合併町との関係を見ると、各合併町は公平に扱われていることが分かった。合併町の観光施設は、各町の中心的な施設として手厚い支援を受けてきたが、合併でその中心性を失い、「周辺化」することとなった。また、行政の公平性は、誘客力の高い効果的な観光振興の妨げになるとも考えられ、観光地域の広域化は行政による観光振興に公平性のジレンマをもたらしたといえる。